

輸送ハンドブック インド



目次

1. インドにおける輸入通関
2. インドにおける関税
3. インド各CFS
 - (A) Nhava Sheva CFS
 - (B) MumbaiとNhava Sheva
 - (C) Chennai CFS
 - (D) New Dehli CFS
4. 各種サービス
 - (A) LCL海上混載輸送サービス
 - (B) 日本～インド直行便混載輸送サービス
 - (C) シンガポールトランシップ輸送サービス
 - (D) インド国内倉庫保管サービス
 - (E) インド国内トラック輸送サービス
 - (F) インド国内重量貨物輸送サービス
5. インド国内ネットワーク



— 輸入通関 —

一般的に必要なとなる書類として、

- 輸入者からの通関業務委託の委任状
- インボイス / パッキングリスト（輸出者のサイン入り原本、Copyの場合は輸入者の押印、サインが必要）
- 輸入貨物のカタログ
- B/L Copy（サレンダーB/LでもWAY BILLでも可です）
- IEC (Importer Exporter Code)

IECはDGFT(Directorate of General and Foreign Trade : インド商工省 外国貿易部)のホームページでオンライン申請が可能で、全ての輸出入者が取得する必要のある10桁の番号です。

<http://dgft.gov.in/>

<http://dgft.gov.in/ieconline.htm>

税関の指摘・要求により必要になる可能性のある書類として、

- 原産地証明書
- 売買契約書

などがあります。

また、親子・兄弟企業間の取引では、[SVB \(Special Valuation Branch\)](#)の登録が必要となり、輸入申告価額に税関のチェックが入りますので、該当すると思われる取引の場合には、事前にお問い合わせ下さい。

各管轄税関で必要になる書類が異なる場合もあり、貨物によってはその他の書類が必要になる場合がありますので、事前にお問い合わせ下さい。

— 関税 —

<http://www.cbec.gov.in/>

<http://www.cbic.gov.in/htdocs-cbec/customs/cst1718-020218/cst1718-0202-idx>

基本関税(Basic Duty)は上記の税関ホームページでH.S CODEごとに確認可能ですが、輸入通関時に支払う税額は、基本関税(Basic Duty)、Social Welfare Surcharge、GST(Goods and Services Tax)などといった複数項目で構成され、計算が複雑ですので、関税率は個別にお問い合わせ下さい。
例えば基本関税(Basic Duty)が7.5%で、GSTが18%の場合は、合計税率は27.735%となります。(2018年5月現在)
(基本関税とGSTは品目によって税率が異なります)

基本関税	社会福祉税	物品・サービス税	関税合計
Basic Duty	Social Welfare Surcharge	Goods and Services Tax	TOTAL DUTY
7.50%	10.00%	18%	27.735%

Nhava Sheva、Mumbaiで通関を切る場合には、上記の他にStamp Duty(印紙税)が掛かります。
計算方式は $0.1\% \times \{\text{Assessable Value(課税標準価額)} + \text{関税額}\}$ となります。

インドの課税標準価額(Assessable Value)はCIF価格で計算されますが、インボイス上の建値がFOB表記で、CIF価格を算出する根拠資料(運賃明細、保険証券など)が入手できない場合は、みなし運賃として、FOB価格の20%が運賃として、みなし保険料として、FOB価格の1.125%が保険料として算定されます。

(従来Assessable ValueはCIF価格+CIF価格の1%で計算されておりましたが、2017年9月26日付けの税関通達で変更が行われ、2017年10月上旬以降の申告はCIF価格をもとに計算されております。

関税計算の際の為替レートは、税関が事前に通知する為替レートに従って計算されます。
料率は税関のホームページで随時更新されます。

<http://www.cbec.gov.in/Exchange-Rate-Notifications>

— CFS —

インドの港湾施設では、CY(本船が着岸するバースに隣接したCY)の敷地面積が狭く、輸入コンテナが本船から荷揚げされた後、そのままCYに留まると、CYがすぐにコンテナで溢れてしまい、港湾荷役に支障をきたします。(日本と異なり、輸入通関に日数が掛かるという事情もあります)
よって原則、輸入コンテナは、荷揚げされた後、CYに留まらず、すぐに内陸オフドックCYへ移送されることになります。

このオフドックCYのことを、インドではCFSと呼称し、日本で意味するデバン作業のためのCFSとは少々意味合いが異なるといえ、FCL貨物でも、LCL貨物でも、原則はこのCFSで輸入通関を切ることになります。そのため、インドではデバンを必要としないFCL貨物でも、CFS費用が発生することになります。

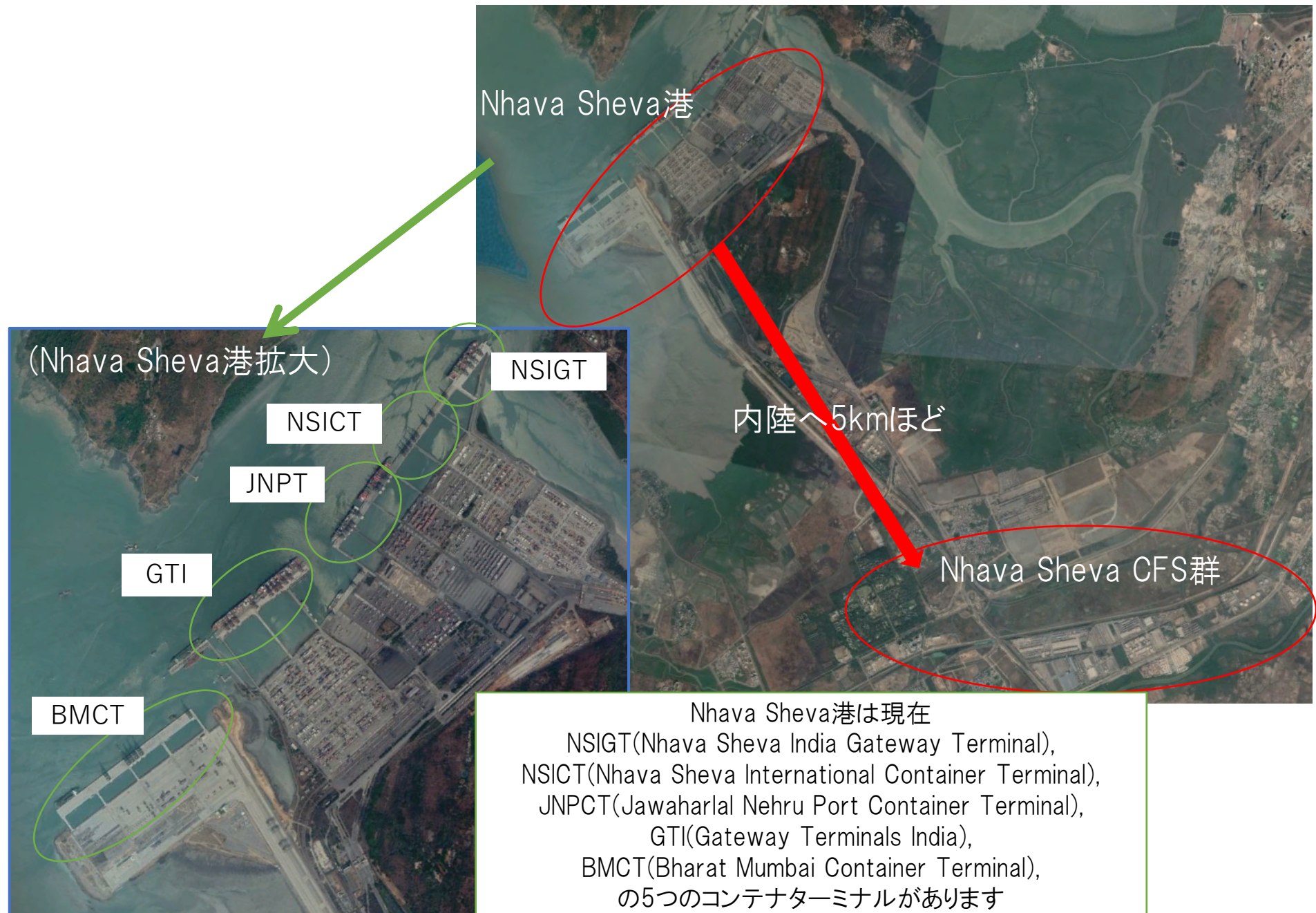
ACP(Accredited Client Program)と呼ばれる制度があり、特例輸入者が輸入通関上の優遇制度を受け、DPD(Direct Port Delivery)という方法で処理する場合がありますが、原則としてインドではCY通関ができないこととなります。

各港湾で複数のCFSが存在し、Nhava ShevaやChennaiでは港湾の後背地、内陸部に20以上のCFSがあり、FCL貨物の場合、基本的には各船会社指定CFSが使用されることになり、目的港で陸揚げされたコンテナは、内陸に転送される場合、DPDの場合を除いては、船社手配で指定CFSへ自動的に移送されることとなります。

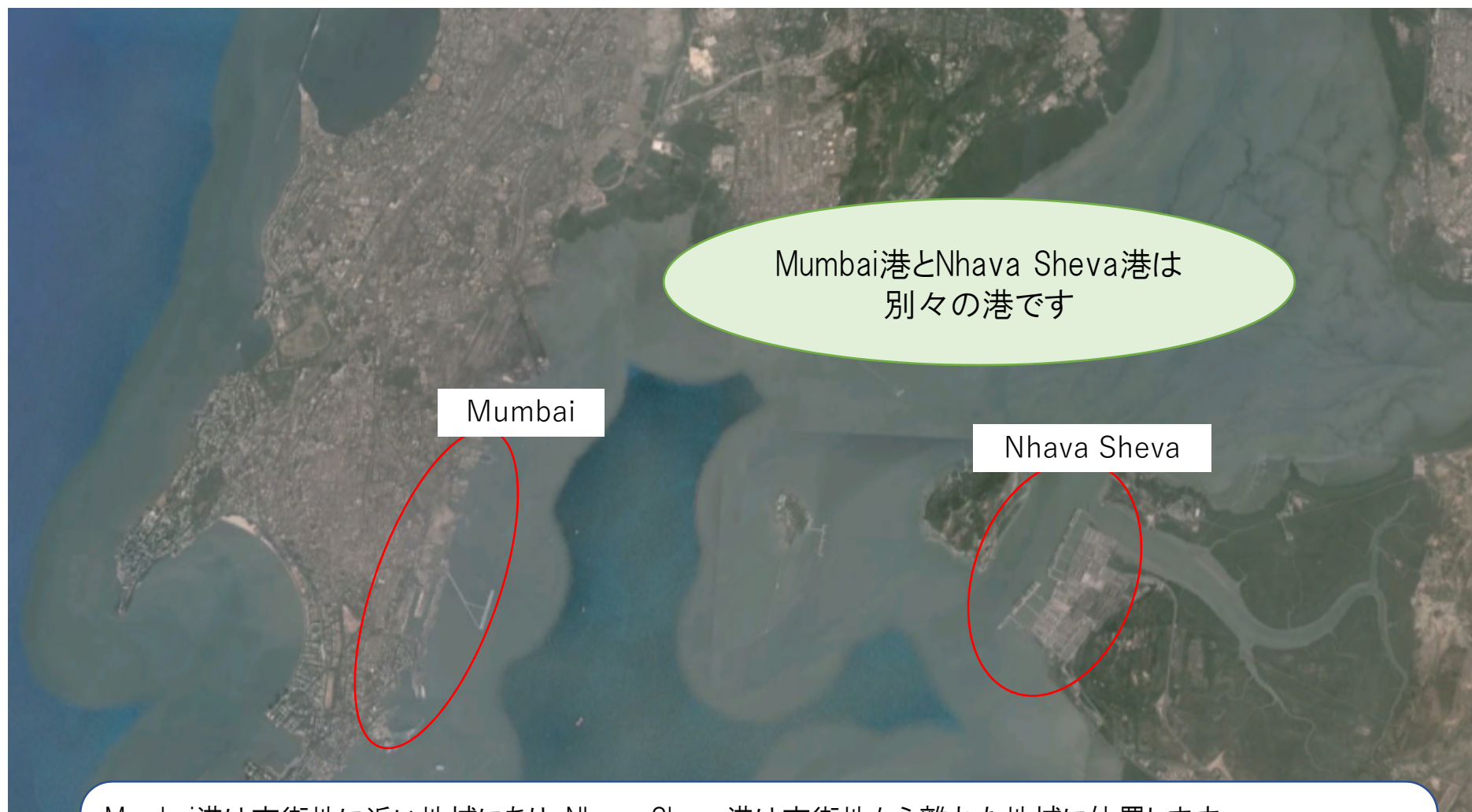
また、Nhava Sheva港ではGTI, JNPCT, NSICTC, NSIGT, BMTCの5ターミナルが現在ありますが、同じNhava Sheva港でもターミナルごとにTHCなどの金額は異なり、船社ごとにも異なりますので、日本のように一定のTHCが決まっているわけではありません。またCFS費用も各CFSで異なりますので、インドでは起用する船会社が異なれば、THC, CFS費用などの全てのローカル費用が異なってくるようになります。



— Nhava Sheva CFS—

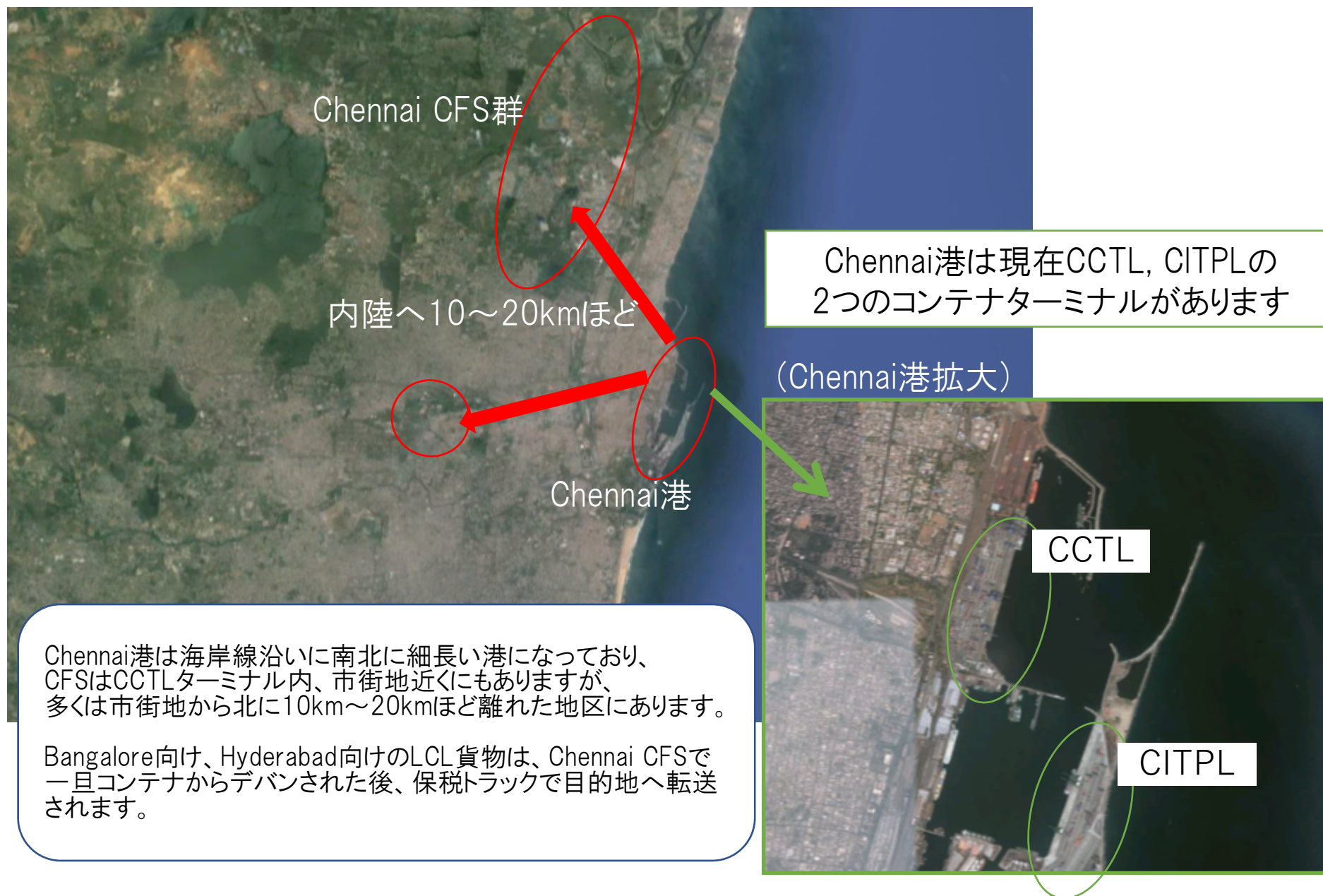


— Mumbai と Nhava Sheva —

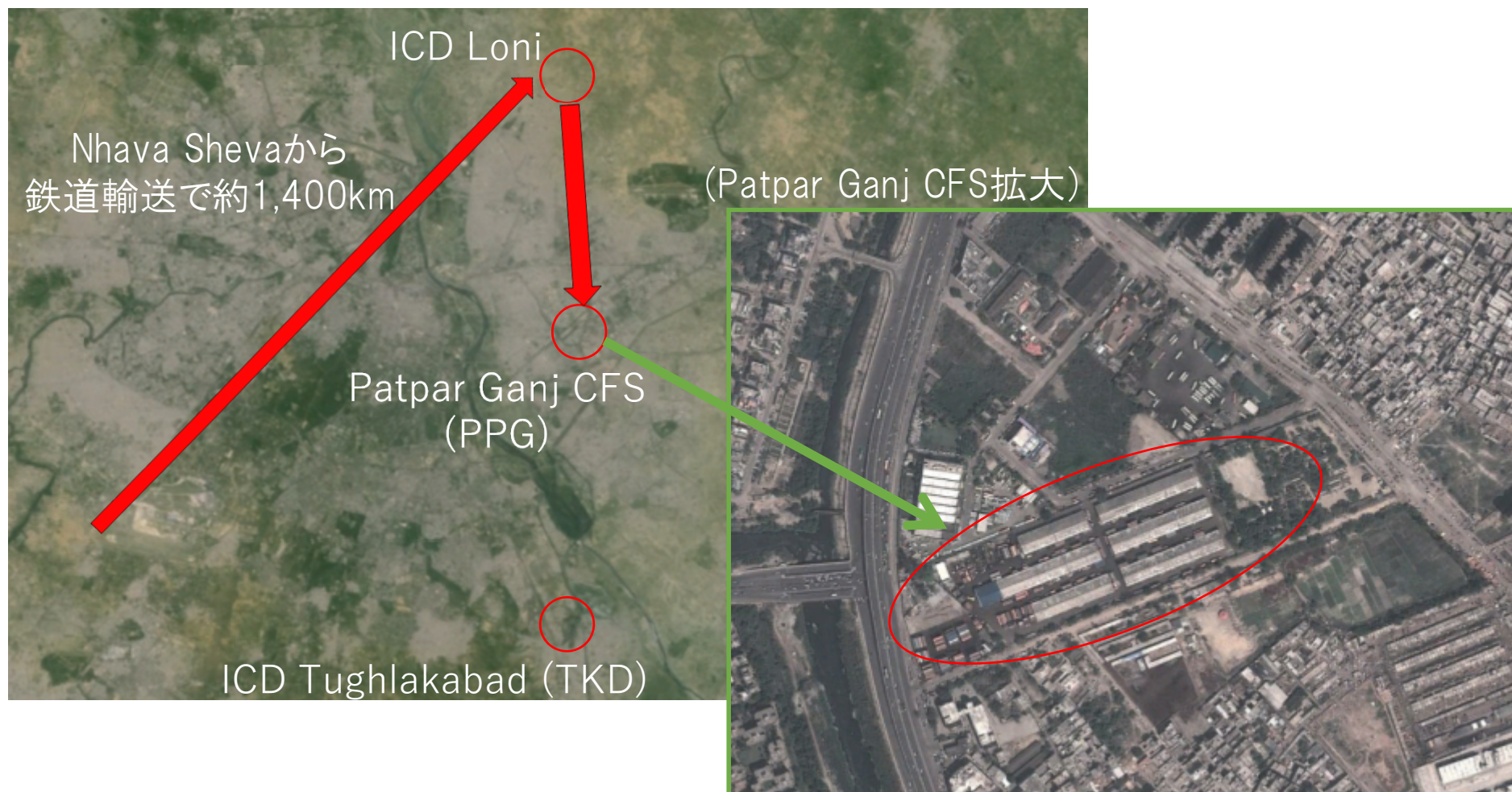


Mumbai港は市街地に近い地域にあり、Nhava Sheva港は市街地から離れた地域に位置します。
 主にMumbai港は在来貨物を扱い、Nhava Sheva港はコンテナ貨物を扱います。
 Nhava Sheva港の正式名称はJawaharal Nehru Port Trust (JNPT)で、B/L上にJNPTと港湾名を記載する
 必要がある場合もあるかと思いますが、事前に記載方法をご相談下さい。
 輸入者様の中には、Mumbai港とNhava Sheva港の区別が付いていない場合もありますので、ご注意ください。

— Chennai CFS —



— New Delhi CFS —



New DelhiにはPatpar Ganj CFS(PPG)とICD Tughlakabad(TKD)の二つの保税地区があり、弊社のNew Delhi向けLCLはPatpar Ganj CFSを使用しております。Nhava Sheva港で陸揚げされたコンテナは、鉄道で最寄りの鉄道ランプであるICD Loniまで輸送され、ICD LoniからはトレーラーでPatpar Ganj CFSまで輸送されます。(Patpar Ganj CFSは鉄道に接続しておりません。Nhava ShevaからICD Loniまでが鉄道で約1,400km、ICD LoniからPatpar Ganj CFSがトレーラーで15kmほどの距離になります。

— LCL (海上混載) 輸送 —

危険品

Class:3はFlash PointによってCFSでの引受可否が分かりますが、Class:1とClass:7以外の多くはインドのCFSでは引受可能な場合が多く、MSDSをもとにお問い合わせ下さい。
(市街地に近いMumbai港では危険品の取扱いはできません)

引越貨物

ほぼ全向け地で引受可能ですが、Nhava ShevaではSpeedy CFS, ChennaiではCCTLなどといった様に、引越貨物の輸入通関が切れるCFSが特定されている場合がありますので、注意が必要です。
事前にお問い合わせ下さい。

長尺、重量、段積不可貨物

お手数お掛け致しますが、都度事前にお問い合わせ下さい。

ドアデリバリー貨物

どのCFSからでも通関、デリバリーをお引き受けさせていただきます。またDDP条件による関税等の立替えもご相談に乗りますので、お問い合わせ下さい。
(輸入通関に必要な書類に関しては、「輸入通関」の項目をご参照下さい。
ネパール向け、ブータン向けのデリバリーもお引き受けします。
もちろんFCL貨物のドアデリバリーも可能で、コンテナデリバリー、デバン後のデリバリーなどご要望に応じてご手配させていただきます。

内陸保税転送貨物

陸揚港から内陸のICD (Inland Container Depot)まで内陸保税輸送することが可能な場合があります。
例えばBangaloreやHyderabadは主な保税転送先ですが、その他にAhmedabadなどのサービスも可能で、保税混載トラックサービスが無い場合には、FTL (Full Truck Load)で保税転送することが可能な場合がありますので、お問い合わせ下さい。

カーゴトレース

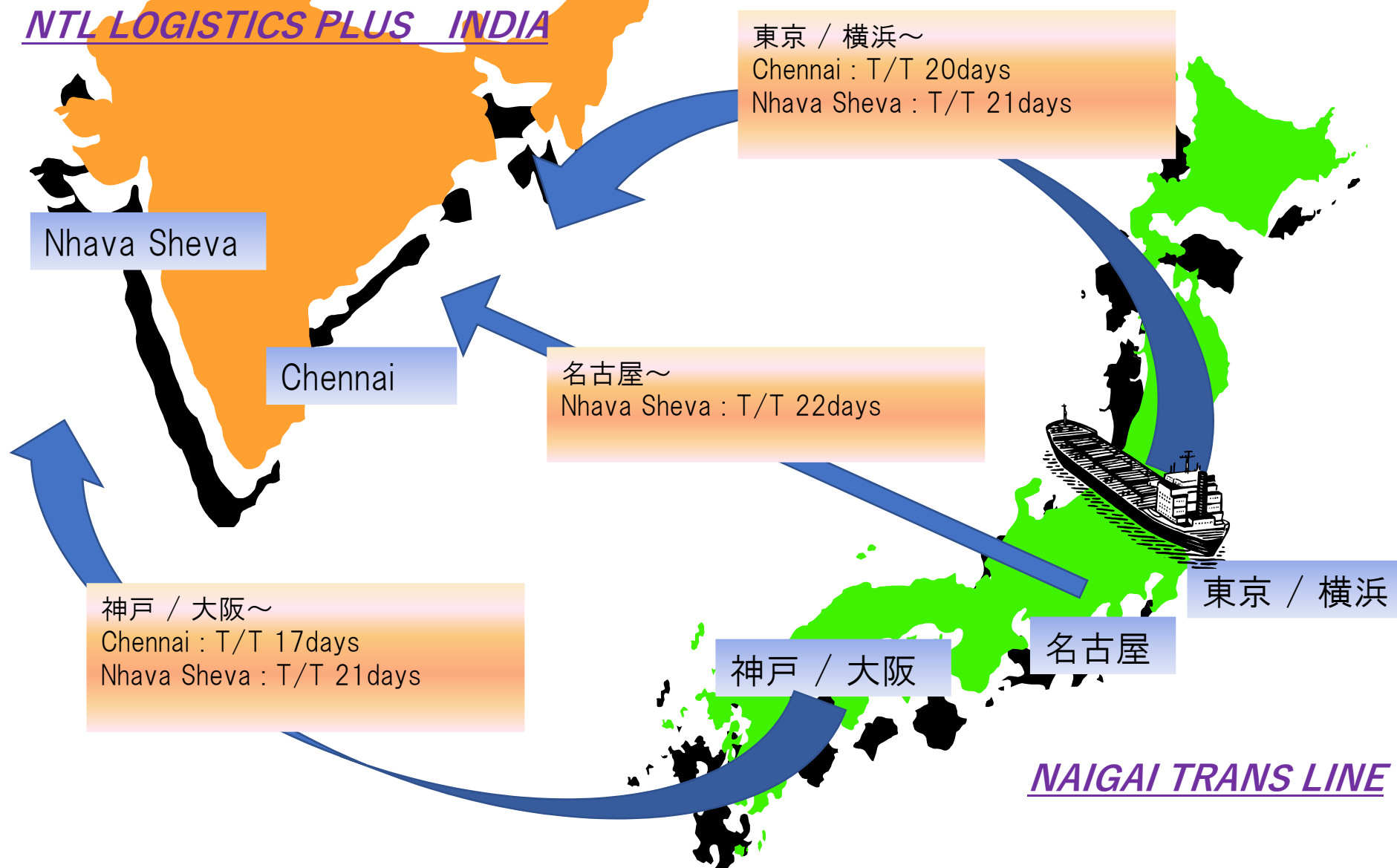
弊社のスタッフが、コンテナの入港以降、ほぼ毎日動静を確認して状況をアップデートしております。

<http://www.ntllogistics.com/order-tracking-form.aspx>

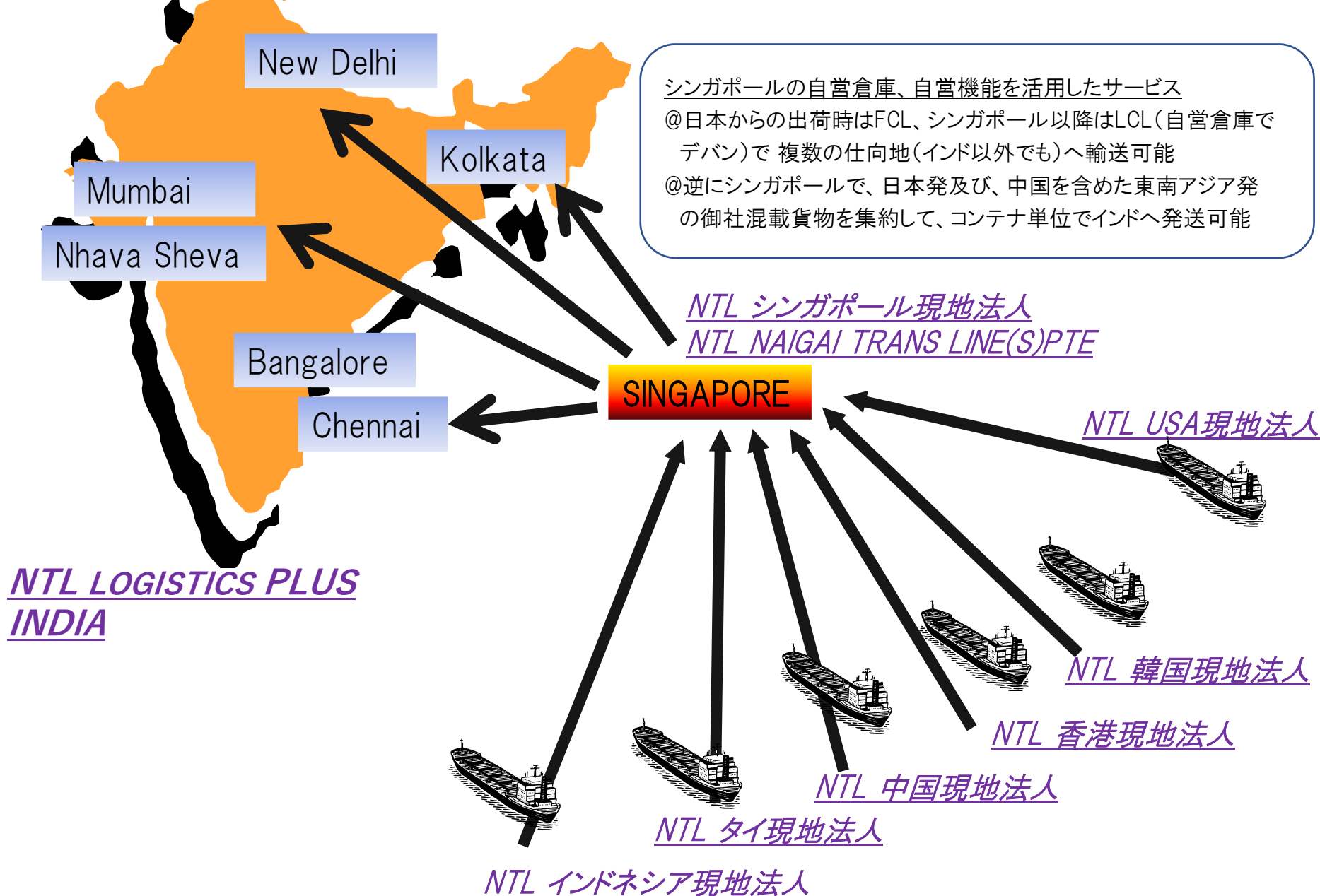
上記サイトにてD/O発行まで貨物追跡できますので、ご活用下さい。

— 直行混載輸送サービス —

NTL LOGISTICS PLUS INDIA



ー シンガポールT/Sサービスー



— 倉庫保管 —



タミルナードゥ州セーラムに自社倉庫を保有し、家電メーカーのインド南部での貨物集積拠点として運営しており、倉庫1階面積約50,000sqft（約4,600㎡）に加え、約40,000sqft（約3,700㎡）の中二階があり、計約90,000sqft（約8,300㎡）で営業しております。

その他、デリー、ムンバイなどに倉庫拠点を有し、化学品、自動車パーツ、医療機材、日用品など様々な貨物を保管しており、お客様のオーダーに応じて配送業務などを行っております。

—トラック国内輸送—



主にタミルナードゥ州セーラムの自社倉庫を起点とした配送サービスを行っており、自社保有車両としては8台の36フィートトラック(密閉荷台)、2台の21フィートトラック(オープン荷台)、1台の小型トラック(オープン荷台)を保有し、その他多数の傭車を使用しながら、お客様のご要望に応じたトラック輸送サービスをご提供しております。

インド国内輸送では、配送先の所在する州によって必要となる書類が異なりますので、注意が必要です。

道路状況にもよりますが、インドの国内トラック輸送は1日に300km～400kmの走行距離が平均となります。

— 重量貨物輸送 —



特殊車両・機材を使用しながら、オーバーサイズ、重量貨物を輸送しております。（工場搬入作業などもお引き受けしております）
プラント輸送を海上輸送、通関、陸上輸送なども含め、一貫でお引き受けしますので、ぜひお問い合わせ下さい。

— インド国内ネットワーク —

Office	Office Address	TEL	FAX
Mumbai	Office No.701, 7th Floor, CASABLANCA, Plot No.45, Sector 11, C.B.D. Belapur, Navi Mumbai-400614	91-22-4012-7175 /76	91-22-4236-7200
Chennai	Doshi Towers, Unit No 4C, 4th Floor, No.156, Poonamallee High Road, Kilpauk, Chennai - 600010	91-44-4211-9636 / 39	91-44- 4358-7738
Bangalore	504A Oxford House, # 15 Rustam Bagh Road, Bangalore - 560017	91-80-4125-6968 / 70	91-80-4110-5609
Delhi	153, 1st Floor, Okhla Industrial Estate, Phase-III, New Delhi-110020	91-11-4665-6500	91-11-4665-6535



<http://www.ntllogistics.com/>